原議保存期間	１ 年（令和１０年３月31日まで）
有効期間	二 種（令和９年３月31日まで）

警察庁丁規発第164号、丁交企発第218号
丁運発第244号
令 和 ８ 年 １０ 月 ２０ 日

警 視 庁 交 通 部 長
各 道 府 県 警 察 本 部 長 殿
（参考送付先）
警察大学校交通教養部長
各管区警察局広域調整担当部長

警察庁交通局交通規制課長
警察庁交通局交通企画課長
警察庁交通局運転免許課長

エコドライブ推進月間の実施について（通達）

環境負荷の軽減に配慮した自動車の使用（以下「エコドライブ」という。）については、各都道府県警察において継続的に広報啓発を行っているところ、警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省の関係４省庁で設置するエコドライブ普及連絡会では、昨年同様、本年11月をエコドライブ推進月間（以下「推進月間」という。）とし、エコドライブの重点的な広報啓発を行うこととしたので、各都道府県警察においても下記のとおり積極的な広報啓発に努められたい。

記

１　実施期間

令和８年11月中

２　実施内容

エコドライブ普及連絡会では、「エコドライブ10のすすめ」（別紙１）を策定し、関係機関・団体においてエコドライブの普及・促進を図ることとしていることから、各都道府県警察においても、これを用いて、安全運転管理者講習等の機会や運転者教育の一環としての広報啓発、広報媒体を利用した情報提供等の取組について、積極的に推進すること。

なお、その実施に当たっては、これまでの取組例（別紙２）を参考とされたい。

３　継続的な広報啓発

エコドライブの実践は環境保全上のみならず、交通事故防止上も一定の効果が期待されることから、推進月間終了後にあっても、継続的な広報啓発に努めること。

なお、事業者等によるエコドライブ活動については下記団体のウェブサイトを参考とされたい。

※　公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
https://www.ecomo.or.jp

別紙1

エコドライブ10のすすめ

令　和　２年　１月
エコドライブ普及連絡会

エコドライブとは、燃料消費量や CO_2排出量を減らし、地球温暖化防止につなげる”運転技術”や”心がけ”です。また、エコドライブは、交通事故の削減につながります。燃料消費量が少ない運転は、お財布にやさしいだけでなく、同乗者が安心できる安全な運転でもあります。心にゆとりをもって走ること、時間にゆとりをもって走ること、これもまた大切なエコドライブの心がけです。エコドライブは、誰にでも今すぐに始めることができるアクションです。小さな意識を習慣にすることで、あなたの運転がよくなって、きっと社会もよくなります。できることから、はじめてみましょう、エコドライブ。

1. 自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。日々の燃費を把握すると、自分のエコドライブ効果が実感できます。車に装備されている燃費計・エコドライブナビゲーション・インターネットでの燃費管理などのエコドライブ支援機能を使うと便利です。

2. ふんわりアクセル「eスタート」

発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう（最初の5秒で、時速20km程度が目安です）。日々の運転において、やさしい発進を心がけるだけで、10%程度燃費が改善します。焦らず、穏やかな発進は、安全運転にもつながります。

3. 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転

走行中は、一定の速度で走ることを心がけましょう。車間距離が短くなると、ムダな加速・減速の機会が多くなり、市街地では2%程度、郊外では6%程度も燃費が悪化します。交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう。

4. 減速時は早めにアクセルを離そう

信号が変わるなど停止することがわかったら、早めにアクセルから足を離しましょう。そうするとエンジンブレーキが作動し、2%程度燃費が改善します。また、減速するときや坂道を下るときにもエンジンブレーキを活用しましょう。

5. エアコンの使用は適切に

車のエアコン（A/C）は車内を冷却・除湿する機能です。暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチを OFF にしましょう。たとえば、車内の温度設定が外気と同じ25℃であっても、エアコ

ンスイッチを ON にしたままだと12%程度燃費が悪化します。また、冷房が必要なときでも、車内を冷やしすぎないようにしましょう。

6. ムダなアイドリングはやめよう

待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる駐停車の際は、アイドリングはやめましょう（※1）。10分間のアイドリング（エアコンOFFの場合）で、130cc程度の燃料を消費します。また、現在の乗用車では基本的に暖機運転は不要です（※2）。エンジンをかけたらすぐに出発しましょう。

※1　交差点で自らエンジンを止める手動アイドリングストップは、以下の点で安全性に問題があるため注意しましょう。（自動アイドリングストップ機能搭載車は問題ありません。）
・手動アイドリングストップ中に何度かブレーキを踏むとブレーキの効きが悪くなります。
・慣れないと誤動作や発進遅れが生じます。またバッテリーなどの部品寿命の低下によりエンジンが再始動しない場合があります。
・エアバッグなどの安全装置や方向指示器などが作動しないため、先頭車両付近や坂道での手動アイドリングストップはさけましょう。
※2　－20℃程度の極寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分です。

7. 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

出かける前に、渋滞・交通規制などの道路交通情報や、地図・カーナビなどを活用して、行き先やルートをあらかじめ確認しましょう。たとえば、1時間のドライブで道に迷い、10分間余計に走行すると17%程度燃料消費量が増加します。さらに、出発後も道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃費と時間の節約になります。

8. タイヤの空気圧から始める点検・整備

タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう（※3）。タイヤの空気圧が適正値より不足すると、市街地で2%程度、郊外で4%程度燃費が悪化します（※4）。また、エンジンオイル・オイルフィルタ・エアクリーナエレメントなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。

※3　タイヤの空気圧は1ヶ月で5%程度低下します。
※4　適正値より50kPa（0．5kg/cm^2）不足した場合。

9. 不要な荷物はおろそう

運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう。車の燃費は、荷物の重さに大きく影響されます。たとえば、100kgの荷物を載せて走ると、3%程度も燃費が悪化します。また、車の燃費は、空気抵抗にも敏感です。スキーキャリアなどの外装品は、使用しないときには外しましょう。

10. 走行の妨げとなる駐車はやめよう

迷惑駐車はやめましょう。交差点付近などの交通の妨げになる場所での駐車は、渋滞をもたらします。迷惑駐車は、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。迷惑駐車の少ない道路では、平均速度が向上し、燃費の悪化を防ぎます。

別紙２

これまでの取組例

(シンポジウム等のイベント開催)
○　各種イベント会場において警察パネル展を活用し、啓発ポスターの掲示及びチラシの配布を実施

(エコドライブ講習会)
○　エコドライブの内容を盛り込んだ交通安全教室の開催

○　自動車教習所教習指導員と連携したエコドライブ教習会の実施

○　安全運転管理者に対するエコドライブ講習会の実施

(運転者教育の一環としての広報啓発)
○　安全運転管理者講習の際、エコドライブの内容を盛り込んだ資料を配布し、部外講師による広報啓発を実施

○　更新時講習の際、エコドライブの内容を盛り込んだ資料を配布

○　運転免許センター等においてエコドライブ啓発ＤＶＤを放映

○　交通安全教室における高齢運転者等に対する広報啓発の実施

(情報提供)
○　交通情報板や光ビーコンを活用したエコドライブの広報啓発

○　警察施設内に設置された電光表示板を活用したエコドライブの広報啓発

○　ポスター、チラシ及びリーフレットの配布による広報啓発

○　警察本部のウェブサイト、ＳＮＳに「エコドライブ１０のすすめ」を掲載

○　警察本部の公式アプリを活用したエコドライブの広報啓発

○　ラジオ放送を活用したエコドライブの広報啓発

(関係団体との連携)
○　関係団体とのエコドライブ街頭キャンペーン及び実体験セミナーの開催

○　自動車学校教習コースを活用したエコドライブ体験講習を実施

(その他)
○　エコドライブリーダー養成講習会に参加した職員を講師として、エコドライブの普及・推進を実施

○　エコドライブ支援装置付ハイブリッド車の公用車への導入

○　教養招集等を利用し、警察職員にエコドライブ推進の呼び掛けを実施